

観測気流

■和田 修一

東京から北海道に赴任すると、2度泣くと言う。1度目は着任時、「何でこんなに寒いところに来たのだろう」と思って、2度目は離任時、「何でもう帰らなければいけないのだろう」と思って。自分自身について言えば、着任が真夏だったこともあり、泣くどころか喜び勇んで着任したが、今年6月、1年足らずで離任となった時には、去り難い思いで文字通り泣いた。

北海道の素晴らしい自然や農水産品も忘れ難いが、何より忘れ難いのは素晴らしい人々である。首長では、森林しかない町で、これをとことん生かして町の活性化を図っている上川管内下川町の安齋保町長、邪魔でしかなかった雪を夏場の冷房などに活用している空知管内沼田町の金平嘉則町長。

産業界では、道産の原材料にこだわり、道内で付加価値をつけて事業展開している、

感謝に会い人経済なすてき

ハーバー(苫小牧)の小柳昌之会長、アミノアップ化学(札幌)の小砂憲一会長、ホリ(砂川)の堀昭社長、北海道ワイン(小樽)の鳥村彰禧社長、玄米酵素(札幌)の岩崎輝明会長など。全てのお名前をあげられないことをお許しください。

皆さんに共通するのは、強い信念とリーダーシップを持ちながら、謙虚なこと。何より北海道を愛していること。北海道には、変えてはいけないものを変えない強さと、変わらなければいけないのに変われない弱さが同居している。

控えめだが能力が高く粘り強い道産子が、一歩前に出て北海道から日本を元気にしていけると確信している。私も、今後は、東京からサポートさせていただければ望外の幸せである。

(日本政策金融公庫特別参与
前北海道経済産業局長)